

**大学ファンドを通じた  
世界最高水準の研究大学の実現に向けて**  
～国際卓越研究大学の第2期公募審査の結果について～

# 国際卓越研究大学の 将来像 (イメージ)

大学ファンドによる支援を通じて、  
日本の大学が目指す将来の姿

- 世界最高水準の研究環境（待遇、研究設備、サポート体制等）で、世界トップクラスの人材が結集
- 英語と日本語を共通言語として、海外トップ大学と日常的に連携している世界標準の教育研究環境
- 授業料が免除され、生活費の支給も受け、思う存分、研究しながら、博士号を取得可能



世界トップクラスの  
研究者/学生が結集

若いときから充実した  
海外経験の機会

海外や産業界で  
活躍する人材、起業する  
人材を多数輩出

分野を横断した  
教育課程など  
魅力的な博士課程

充実した研究支援体制  
世界中から多様な学生  
Inclusion Diversity



多様性・包括性のある環境



資金の好循環

産・官・学  
新たな  
知・イノベーションの  
創出

次代の社会構造への転換  
地球規模の課題解決への貢献  
例：カーボンニュートラル、DX



世界最高水準  
の教育研究

企業との共同研究  
卒業生からの寄附  
の拡大

大学独自基金の  
拡充

次世代への再投資  
経済的不安がなく、  
博士課程に進学可能



国内外の大学・  
研究機関



国内外の企業



現在の大学

# 大学ファンドの支援対象となる国際卓越研究大学の公募・選定について

## 1. 公募・選定のポイント

### 判断

これまでの実績や蓄積のみで判断するのではなく、世界最高水準の研究大学の実現に向けた「**変革**」への意思(ビジョン)と**コミットメントの提示**に基づき実施。

### 大学数

制度の趣旨を踏まえ、認定及び認可される大学は無制限に拡大するものではなく、**数校程度に限定**。  
また、**大学ファンドの運用状況等を勘案し、段階的に認定及び認可を行う**。

### 要件

制度の趣旨や大学の負担も考慮し、大学認定と計画認可の審査プロセスを一体的に実施。

1. **国際的に卓越した研究成果を創出できる研究力**

2. **実効性高く、意欲的な事業・財務戦略**

3. **自律と責任のあるガバナンス体制**

### 審査体制

**総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会が適切に情報共有等の連携を行うことができる体制**（アドバイザーボード）を構築。

### 段階的 審査

審査においては、**研究現場の状況把握や大学側との丁寧な対話を実施**  
（書面や面接による審査だけでなく、**現地視察、体制強化計画の磨き上げなど多様な手段により審査を実施**）。



## 2. 第2期公募の京都大学の審査に係るスケジュール

令和7年6月～ 12月	アドバイザーボード 書面審査、総括審議、面接審査（全8大学）、現地視察（6大学）、面接審査、総括審議 第2期公募の審査状況を公表 ・京都大学は認定候補として最長で1年間、体制強化計画案の磨き上げ
令和8年4月～ 7月	アドバイザーボード 審査（京都大学の計画の磨き上げの状況確認） アドバイザーボードによる京都大学の審査結果公表 国際卓越研究大学の認定・体制強化計画の認可（予定）
夏頃	京都大学の体制強化計画開始



# 国際卓越研究大学の認定・研究等体制強化計画の認可の審査体制

## 総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）

〔国際卓越研究大学法に基づき、国際卓越研究大学の認定、体制強化計画の認可について意見〕

有識者議員のうち、数名が参加

## 文部科学省 科学技術・学術審議会

〔国際卓越研究大学法に基づき、国際卓越研究大学の認定、体制強化計画の認可について意見〕

大学研究力強化委員会の委員等のうち、数名が参加

## 国際卓越研究大学 アドバイザリーボード



## 審査事務局（文部科学省）

①国際的に卓越した研究成果を創出できる研究力

②実効性高く、意欲的な事業・財務戦略

③自律と責任のあるガバナンス体制

国内外のレビュアー



内閣府

連携

情報提供

NISTEP

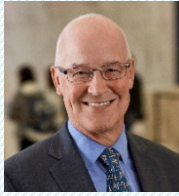
（参考）国際卓越研究大学法に基づく基本方針（抜粋）

### 3 総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会への意見聴取

科学技術・イノベーション政策における国際卓越研究大学制度の重要性に鑑み、文部科学大臣は、国際卓越研究大学の認定に当たり、法第4条第4項の規定に基づき、あらかじめ、総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会の意見を聴かなければならないこととされている。その際、総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会が適切に情報共有等の連携を行うことができる体制を構築するとともに、アカデミアの特性も踏まえつつ、国際的な視野から、高度かつ専門的な見識を踏まえらるよう、外国人有識者も加えた適切な体制を構築することとする。

# アドバイザーボードの構成員について

※2026年7月1日時点



ニューヨーク大学 名誉学長、元ニューヨーク大学 学長、元オクスフォード大学 学長、元イェール大学 プロボスト  
President Emeritus, New York University.  
Former President, New York University / Former Vice-Chancellor, University of Oxford / Former Provost, Yale University.

**アンドリュー・D・ハミルトン/Andrew D. Hamilton**



シンガポール科学技術研究庁長官他、元シンガポール国立大学 学長  
Permanent Secretary (National Research and Development) / Permanent Secretary (Public Sector Science and Technology Policy and Plans Office), Prime Minister's Office / Chairman, Agency for Science, Technology and Research / Chairman, MOH Office for Healthcare Transformation / Former President, National University of Singapore

**タン・チャー・チュアン/Tan Chorh Chuan**



内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 議員  
(一社) 産業競争力懇談会 エグゼクティブアドバイザー  
Executive Member, Council for Science, Technology and Innovation  
Executive Adviser, Council on Competitiveness-Nippon

**梶原 ゆみ子/Kajiwara Yumiko**



内閣府本府参与 (科学技術・イノベーション担当)  
Special Advisor Science, Technology and Innovation Cabinet Office,  
Government of Japan

**上山 隆大/Ueyama Takahiro**



フューチャー株式会社 代表取締役会長  
CEO, Future Co.

**金丸 恭文/Kanemaru Yasufumi**



ウィルトン・ストラテジー社CEO  
元UCバークレー 副学長、元シンガポール国立大学 副学長  
CEO, Wilton Strategy Inc.  
Former Vice President, University of California, Berkeley / Former Vice President, National University of Singapore

**ジョン・ウィルトン/John Wilton**



大学共同利用機関法人自然科学研究機構 機構長  
国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター長  
President, National Institutes of Natural Sciences  
Director, Center for Research and Development Strategy

**川合 真紀/Kawai Maki**



国立研究開発法人 産業技術総合研究所  
量子・AI融合技術ビジネス開発グローバル研究センターフェロー  
National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)  
Global Research and Development Center for Business by Quantum-AI technology (G-QuAT) Fellow

**山本 喜久/Yamamoto Yoshihisa**



国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT) 理事長  
東北大学 総長特別顧問  
President, National Institute of Information and Communications Technology  
Executive Adviser, Tohoku University

**大野 英男/Ohno Hideo**



福島国際研究教育機構 理事長、前金沢大学 学長  
President, Fukushima Institute for Research, Education and Innovation  
Former President, Kanazawa University

**山崎 光悦/Yamazaki Koetsu**



NTT株式会社 特別顧問  
(一社)日本経済団体連合会・デジタルエコミー推進委員会委員長  
Senior Advisor, NTT, Inc.  
Chair of the Committee on Digital Economy, Japan Business Federation (Keidanren)

**篠原 弘道/Shinohara Hiromichi**

# 第2期公募における有識者会議の審査の経過・審査結果について

## 1. 審査の経過

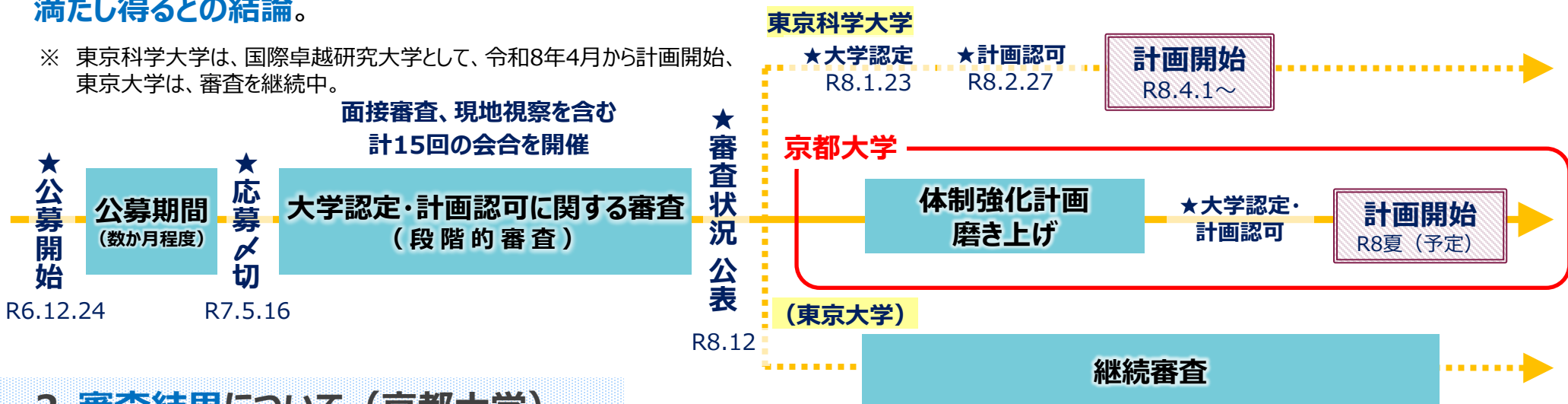
申請のあった8大学について、書面審査や国内外のレビュアーの意見に加えて、大学側との丁寧な対話を実施する方針のもと、8大学に対して面接審査、6大学に対して現地視察を実施。これらの審査も踏まえ、**京都大学を認定候補大学として、最長で1年間、体制強化計画の磨き上げを実施した上で計画を開始することが適当と判断**※。

アドバイザーボードとして、京都大学から各確認事項の検討状況を聴取の上審議を行い、各確認事項への対応状況について確認。審議の結果、**京都大学について、国際卓越研究大学の認定及び計画の認可の水準を満たし得るとの結論**。

※ 東京科学大学は、国際卓越研究大学として、令和8年4月から計画開始、東京大学は、審査を継続中。



アドバイザーボード第1回会合



## 2. 審査結果について (京都大学)

国際卓越研究大学法に基づき、京都大学の認定及び計画の認可について、総合科学技術イノベーション会議及び科学技術・学術審議会の意見を聴き、文部科学大臣として判断を行う予定。計画の開始から2年度内及び3年度内に厳格なモニタリングや助言を実施予定。

# 国際卓越研究大学の支援に係るスケジュール

2022年度  
(令和4年度)

2023年度  
(令和5年度)

2024年度  
(令和6年度)

2025年度  
(令和7年度)

2026年度  
(令和8年度)

国際卓越研究大学の研究及び研究成果の活用のための体制の強化に関する法律  
令和4年5月18日成立・11月15日施行

基本方針策定

12月 国立大学  
法人法改正

## 初回公募の対象大学選定

面接審査、現地視察、体制強化計画の磨き上げなど、多様な手段により審査を実施  
※ガバナンス変更準備

9月1日  
認定対象候補の大学  
(東北大) を公表

6月14日  
アドバイザリーボードの  
審査結果を公表

認定・計画認可  
東北大学

## モニタリング・評価

- ✓ 体制強化計画の実施状況等について、毎年度「進捗確認（モニタリング）」を行う
- ✓ 一定期間（6年～10年を目安）ごとに、支援の継続可否に係る「期末（マイルストーン）評価」を実施

## 支援開始

※第Ⅰ期：10年間、第Ⅱ期：8年間、第Ⅲ期：7年間

## 第2期公募の対象大学選定

面接審査、現地視察、体制強化計画の磨き上げなど、多様な手段により審査を実施

- 12月19日  
アドバイザリーボードの審査結果公表
- ・ 東京科学大学：  
令和8年4月から計画開始
  - ・ 京都大学：認定候補として  
計画の磨き上げ
  - ・ 東京大学：審査継続

認定・計画認可  
東京科学大学

- 7月3日  
アドバイザリーボードの  
審査結果を公表
- ・ 京都大学：  
令和8年夏頃から計画開始

## 支援開始

※第Ⅰ期：6年間、第Ⅱ期：9年間  
第Ⅲ期：7年間

認定・計画認可  
京都大学

## 支援開始

※第Ⅰ期：10年間  
第Ⅱ期：8年間  
第Ⅲ期：7年間

※ 東京大学は審査継続中